ぐんぐん すくすく！相生っ子!

住所　相生市緑ヶ丘４丁目5-5
電話　0791-23-5070
FAX　0791-22-7211
E-mail　ikusei-aioi@nifty.com

◆第45回相生市青少年健全育成市民大会を開催しました。

(令和8年１月25日(日) 相生市文化会館 なぎさホールにて)

挨拶運動表彰

少年非行の概況

今年も相生高校・相生産業高校の生徒 8 名が大会スタッフとして参加してくれました。
司会の水上さん、宮内さん。
受付や表彰補助をしてくれた栗田さん、藤本さん、中西さん、藤村さん、髙野さん、平山さん。
アンケート回収もしてくれました。
大会の雰囲気がとてもやわらぎました。
　ありがとうございました。

記念講演　「生まれてきてくれてありがとう～少年相談の現場から～」　堀井　智帆さん

問題行動＝
親や周囲の大人に対して発している
「メッセージ・SOS」

だけど、実は、小さい頃から家の中でも
親が困る行動を通して親に向かってサインを発している。

～愛着を育てる３要素～
スキンシップ
目を合わせる
名前を呼ぶ

☆　6大関わり
「怒る」
「叱る」
「諭す」
「泣き落とす」
「約束をする」
「環境を除去する」

　私はこの仕事に就くまで、「親の子どもへの愛は無償の愛」だと思っていました。けれど、たくさんの子どもたちの話を聞くうちに「違う」と思うようになりました。
　親の子どもへの愛は意外と条件付きです。余裕があって環境が整っていれば優しい親でいられます。でもそうじゃなかったら、子どもを冷たくあしらう親も結構いるのです。
　でも子どもは違います。どんな親でも自分の親が誰よりも一番で、自分の親が喜んでくれることを、笑ってくれることを、安心してくれることを願いながら小さな心で必死に生きています。
「子どもの親への愛こそが無償の愛」だと私は思うようになりました。

　子育ては親だけに重圧をかけてはいけません。社会や地域全体で子どもを育てていくという意識や環境が大事です。
ですから、なるべく地域の大人たちは、機会を見つけて子どもたちとハイタッチや、目と目を合わせてあいさつをして、子どもたちの名前をたくさん呼んであげてほしいと思います。プラスの関わりをたくさん心がけていただきたいです。

「司馬さんと大震災」

神戸新聞社論説副委員長　長沼　隆之

作家の司馬遼太郎さんが亡くなって、今年で30年になる。数々の著作や講演、対談などで残された司馬さんの言葉は、いまも多くの人々の心に刻まれ、生き続けている。

この時期になると、読み返したくなる名文がある。神戸のタウン誌「月刊神戸っ子」の1995年2・3月合併号。同年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の後に発行されたこの号に、司馬さんは編集者の依頼を受け、「世界に一つの神戸」と題する一文を寄稿した。

震災当時、司馬さんは大阪にいた。「連日、神戸の惨禍の報道に漬かっていて、自分が被災者でないことが申し訳ないという気持ちでいた」とつづる。被災地の様子に胸を痛めつつ、人々の表情に司馬さんは感動し続けたのだという。

「家族をなくしたり、家をうしなったり、途方に暮れる状態でありながら、ひとびとは平常の表情をうしなわず、たがいにたすけあい、わずかな救援に、救援者が恥じ入るほどに感謝をする人も多かった」

尊厳を失うことなく、懸命に生きた人々への痛切な思いと愛を込めたメッセージに、どれほど励まされたことか。私自身、この文章を目にしたとき、言霊のすごみを感じた。何度読んでも胸が熱くなる。

震災翌年の2月12日、司馬さんは被災地の復興を見届けることなく、この世を去る。

「やさしい心根の上に立った美しい神戸が、世界にただ一つの神戸が、きっとこの灰塵の中からうまれてくる」

「あの日」から31年。神戸の街は大きく変貌し、当時を知らない市民も増えた。文末に記された言葉通りの街になることができたか。もし司馬さんが生きていたら、どう書くのだろう

（神戸新聞 2026/1/15日号「日々小論」より）

「みんなで良い集団をつくる」

「なぜかきらわれない生徒指導」（前 哲央著 東洋館出版社）より抜粋

集団は簡単に悪い状態になることがあります。生徒や保護者、もしくはその両方が、思い通りにならないことがあって自分勝手な主張をするだけで、先生の主導権が奪われ、集団が「悪いことをするのが当たり前」の状態になってしまう。その様な生徒や保護者とも良い関係をつくって、悪い状況にならないようにしなければならないのです。

また学校が、学校の方針として、「荒れた学校、すさんだ学校にしない」ことを優先せず、逆に「先生のための方針」になってしまっても、集団は悪くなります。学校を「荒れさせない」「すさんだ学校にしない」と願う先生がいくら頑張っても学校の方針が生徒の気持ちから遠く離れてしまっては、どうしようもない。先生はやはり、集団を劣悪な環境にしてはいけないという責任感を持って、生徒を育てていかなければならないのです。そういう先生が増えてくると学校は必ず良くなっていきます。

悪いことは叱る。良いことは褒める。常に生徒のためになることは何かを考える。**そして、そのことを伝え、みんなで良い集団をつくっていこうと呼びかける。** 当たり前のことをきちんとやっていれば、生徒は必ず理解を示してくれるし、つまり、当たり前のことをきちんとしていけば、無理な努力をしなくても「その先生の人気」や信頼は、自然と上がっていくのです。

■臨床心理士による**『相生っ子悩み相談』**(要予約)
　令和8年　2月27日(金)　午後1時～5時
　　3月27日(金)　午後1時～5時

■センター職員による**教育相談**もご利用ください。
　〇来所相談　毎週 火曜日～金曜日　午後1時～4時
　〇電話相談　毎週 月曜日～金曜日　午後1時～4時
　　(ただし、祝日は休み)

友達に言えないこと、
両親に言えないこと、
先生にも言えないこと、
ひとりで悩んでいないで、
気軽に電話してください。
小・中・高校生・保護者
ご家族の皆さんもどうぞ。

※一人で抱えこまず、お気軽にご相談ください。
※問題に立ち向かうための元気づけ、勇気づけができればと思っています。